

第53回がん対策推進協議会

2015年9月17日

2013 がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査

「がんと向き合った4,054人の声」

【要旨】

「がんの社会学」に関する研究グループ

研究代表者 静岡がんセンター 山口 建

(がん対策推進協議会 委員)

## 【要旨】

### 1 がん生存者数の推計

やや古い推計だが、現在、我が国には、短期がん生存者（治療後5年未満）225万人が存在すると推計される。これには、“治療中あるいは治療終了後で経過観察中”、“進行がん、再発がんのため治療中”、及び“終末期緩和ケアの対象者”が含まれる。一方、長期がん生存者（治療後5年以上）は308万人で、合わせて533万人のがん生存者が暮らしていると推計される。

#### 我が国における2015年末の時点での がん生存者推計数

- 短期がん生存者（治療後5年未満） 225万人
  - 治療中あるいは経過観察中
  - 進行がん・再発がんの治療中
  - 終末期緩和ケアの対象者
- 長期がん生存者（治療後5年以上） 308万人
  - 治癒の可能性大

（2004 がんの社会学合同研究班）

### 2 がん患者の悩みや負担に関する静岡分類（報告書 6 ページ）

がん患者の悩みや負担を科学的に解析するため、静岡分類を確立した。第二次調査では、自由記述で得られた9,600余りの患者の声を大分類、中分類、小分類、細分類に紐付けし、解析を行っている。さらに、大分類の項目をまとめ4つの柱としている。

#### がん患者の悩みや負担に関する静岡分類 【4つの柱と15大分類】

##### 【診療の悩み】

外来、入退転院、診断・治療  
緩和ケア、告知・IC・SO  
医療連携、在宅療養  
施設・設備、医療者との関係

##### 【身体の苦痛】

症状・副作用・後遺症

##### 【心の苦悩】

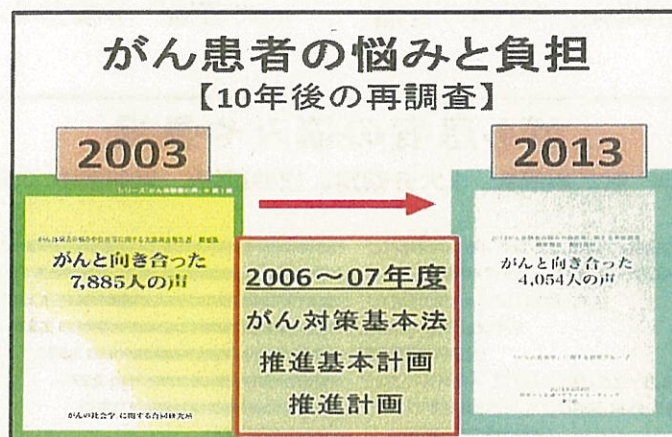
不安などの心の問題  
生き方、生き甲斐・価値観

##### 【暮らしの負担】

就労・経済的負担  
家族・周囲との関係

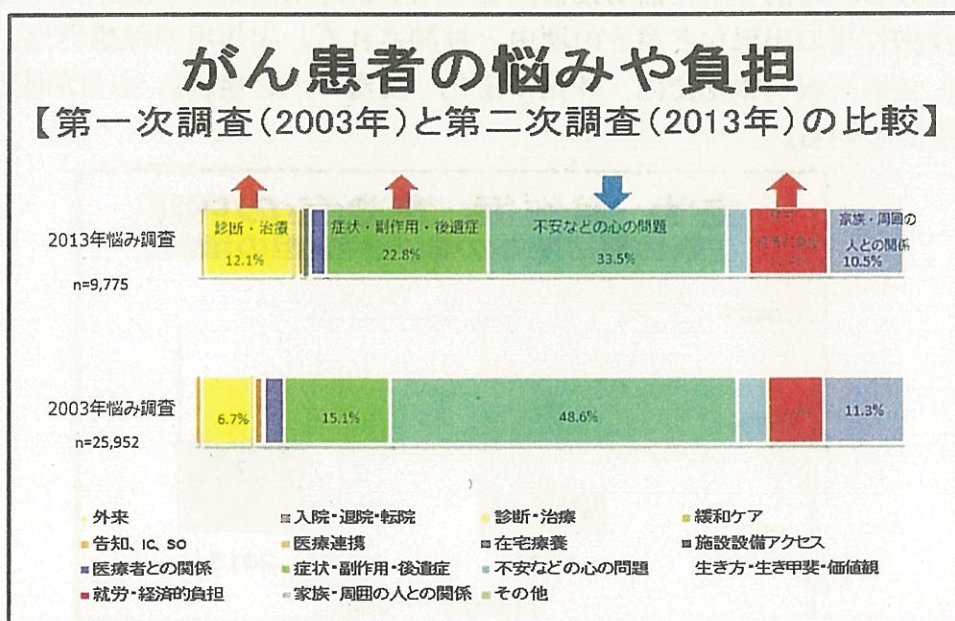
### 3 がん患者の悩みや負担に関する第二次調査の意義

がん患者の悩みや負担を科学的に解析するための静岡分類を用い、選択肢調査も合わせ、第一次と同一の調査を行うことによって、がん対策基本法等の効果がある程度、推測することが出来る。また、情報、支援、就労については質問項目を充実させた。



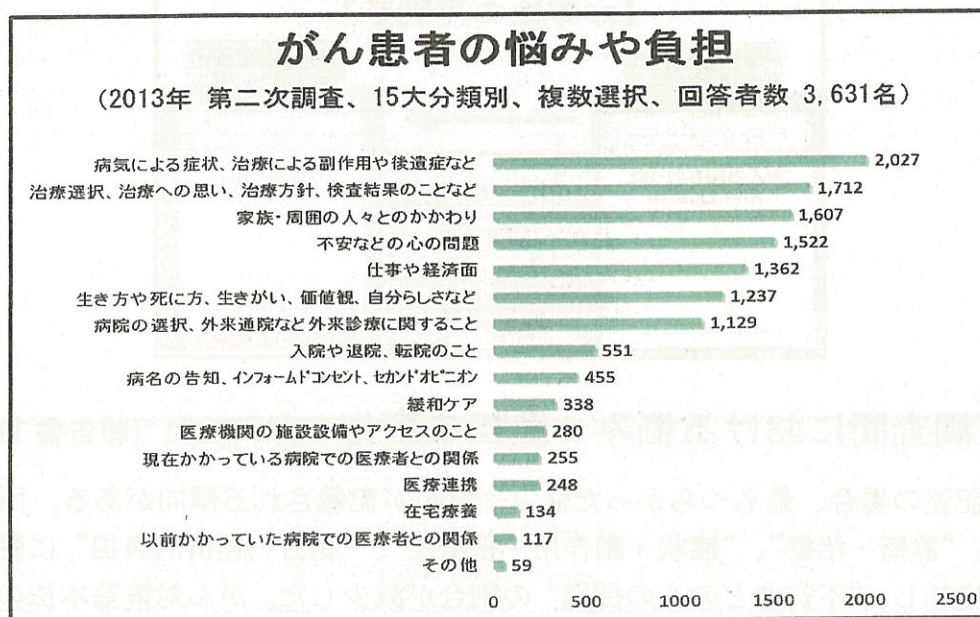
### 4 両調査間における悩み・負担の変化（自由記述）（報告書 11 ページ）

自由記述の場合、最もつらかった悩みや負担が記載される傾向がある。両調査を比較すると、“診断・治療”、“症状・副作用・後遺症”、“就労・経済的負担”に関する悩みの割合が増加し、“不安などの心の問題”の割合が減少した。がん対策基本法の施行やがん対策推進計画の実践により、拠点病院や相談支援センターの充実が図られ、医療スタッフによる説明も積極的になり、漠然とした心の不安が減少したと思われる。その一方で、病状を理解すればするほど、“診療の悩み”、“身体的症状に関する負担”の割合が増加していると思われる。医療費に関する負担増の悩みも多い。



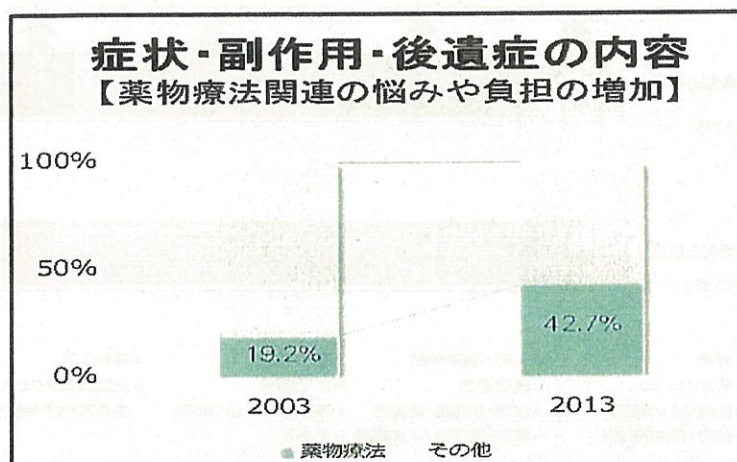
## 5 がん患者の悩みや負担（2013年調査、15分類別、選択肢）

現時点での、がん患者の悩みや負担の全体像。複数選択の場合、患者が体験した悩みや負担を、程度にかかわらずチェックする傾向があり、“診療の悩み”、“身体の苦痛”、“心の苦悩”、“暮らしの負担”が万遍なくチェックされている。自由記述との比較では、“診療の悩み”の割合が増え、“身体の苦痛”、“心の苦悩”が減少している。



## 6 薬物療法に伴う悩みや負担の増加（自由記述）（報告書13ページ）

“症状・副作用・後遺症”の項目において、がん薬物療法に関する悩みや負担の増加が顕著にみられる。術前・術後補助薬物療法の増加、外来治療の増加、分子標的薬などによる新たな副作用の出現などがその理由と推測される。副作用の種類では、脱毛、末梢神経障害、食欲不振・味覚変化、外見の変化（皮膚・爪の症状）などが増え、一方、吐き気は減少している。



## 7 がん体験者が求める情報や支援（自由記述）（報告書 26 ページ）

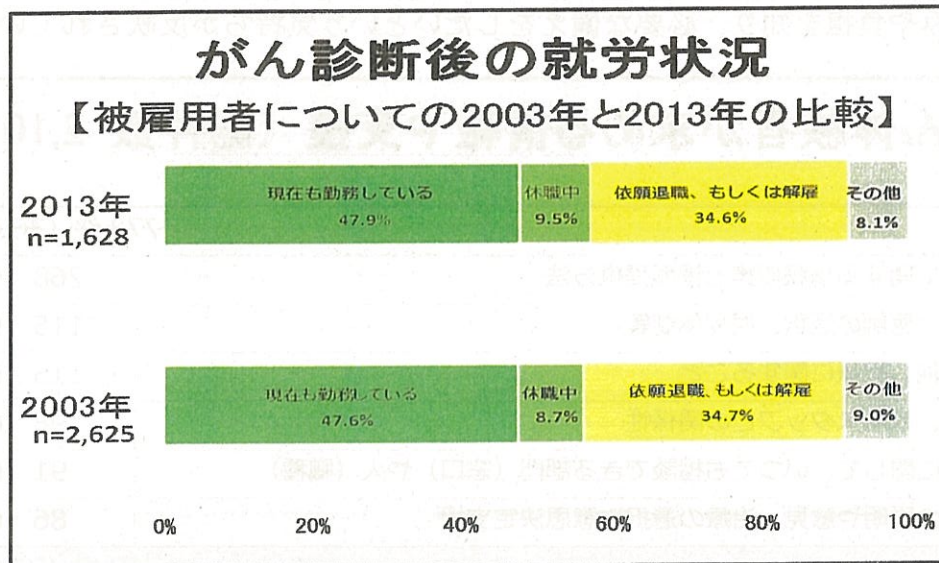
がん患者・体験者が求める情報や支援の項目としては、“診療の悩み”、“心の苦悩”に関するものが多く、“身体”や“暮らし”に関するものは比較的少なかった。すべてを通じて最も多かったものは“体験談・体験者との交流”という項目で、今後、体験するであろう悩みや負担を知り、必要な備えをしたいという気持ちが反映されているようだ。

### がん体験者が求める情報や支援（総件数 2,101 件）

診療		773 件 (36.8%)
1	診療に関する情報収集と情報提供方法	268 (12.8%)
2	病院・医師の選択、医療体制等	115 (5.5%)
3	その他 診療に関すること	115 (5.5%)
4	医師、医療スタッフとの関係性	98 (4.7%)
5	診療に関して、いつでも相談できる部門（窓口）や人（職種）	91 (4.3%)
6	医師の説明や意見、治療の選択や意思決定支援	86 (4.1%)
心		719 件 (34.2%)
1	体験談、同病者との交流	446 (21.2%)
2	何でも話せて相談できる相談窓口	98 (4.7%)
3	不安や思いを聞いてもらう場や人の存在	76 (3.6%)
4	生き方、終活	43 (2.0%)
5	その他 心に関すること	40 (1.9%)
6	がんに対する理解不足や偏見の改善	16 (0.8%)
体		268 件 (12.8%)
1	症状や機能障害等に関する情報と具体的な対処方法	165 (7.9%)
2	機能障害や外見の変化に関する助言、指導	47 (2.2%)
3	食生活、食事に関すること	19 (0.9%)
4	その他 体に関すること	16 (0.8%)
5	体重・体力の低下、維持や回復（リハビリ含む）	11 (0.5%)
6	社会復帰、日常生活活動の情報やアドバイス	10 (0.5%)
暮らし		341 件 (16.2%)
1	経済的負担（医療費、生活費）等	184 (8.8%)
2	仕事に関すること	59 (2.8%)
3	家事、家族（子どもや親など）の世話、日常生活	40 (1.9%)
4	その他 暮らしに関すること	24 (1.1%)
5	家族に関すること	23 (1.1%)
6	社会、人との関わりに関すること	11 (0.5%)

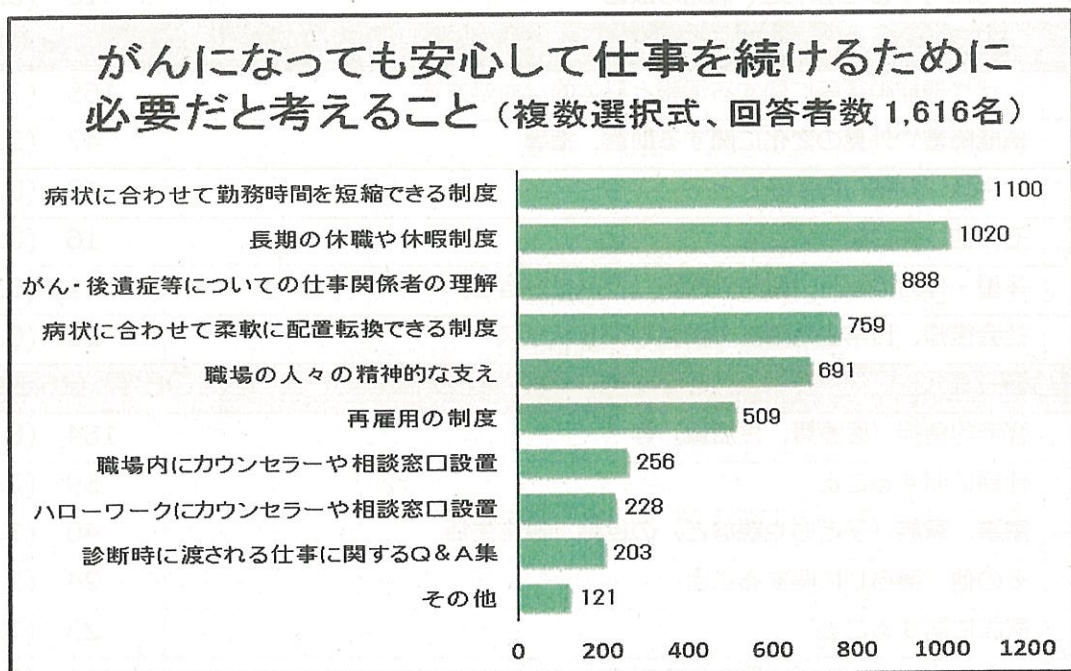
## 8 がん診断後の就労状況（選択肢）（報告書 34 ページ）

被雇用者について、第一次と第二次調査結果を比較すると、“依頼退職、もしくは解雇”の割合はほぼ同一であり、就労状況に大きな変化は認められなかった。



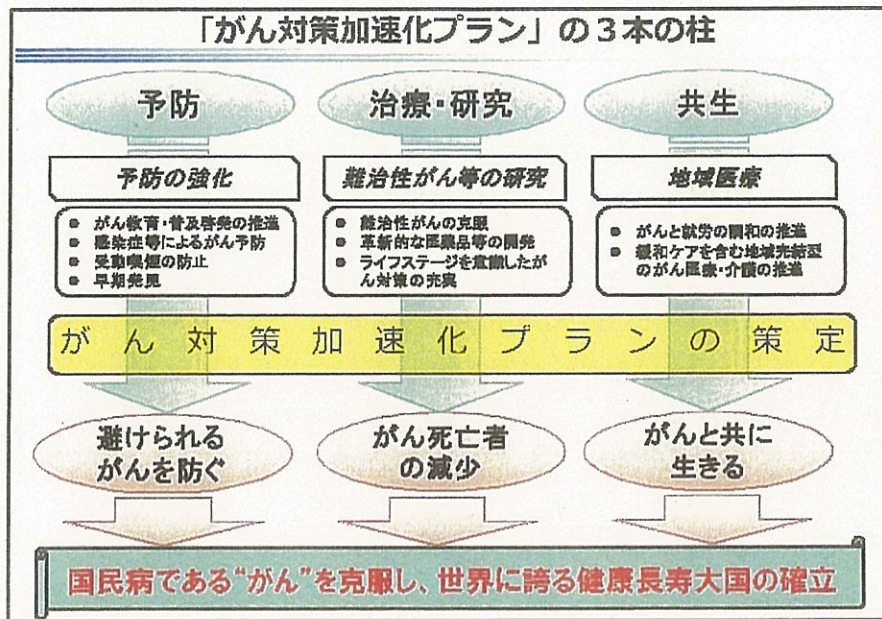
## 9 がん患者の就労に関して必要なこと（選択肢）（報告書 35 ページ）

がん患者は、安心して仕事を続ける上で、“各種制度の改善”、“周囲の理解や職場の人の精神的な支え”、“相談窓口”などが必要だと考えている。



## 10 がん患者の悩みや負担をがん対策に生かすために

中・長期的視野に立ったがん教育、予防、治療・研究は重要である。その一方で、今、がんという病気に向き合っている200万人余りの人々、その周囲の多くの人々、そして医療スタッフが希望を失わないよう、がん対策基本法や推進基本計画には即効性あるメッセージも含める必要がある。



## 11 短期的視野に立った具体的な対策について

早期に一定の効果が期待でき、予算上も大きな問題がない提案を工夫する必要がある。

